

29年2月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 2月1日～ 29年2月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
入荷動向	国産材製材品	△ 35.7	△ 14.3	△ 7.1
	外材製材品	△ 7.1	△ 7.1	△ 7.1
	その他	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
販売動向	国産材製材品	△ 21.4	7.1	14.3
	外材製材品	△ 21.4	0.0	7.1
	その他	△ 16.7	△ 8.3	0.0
在庫動向	国産材製材品	△ 35.7	△ 14.3	△ 7.1
	外材製材品	△ 7.1	△ 7.1	△ 7.1
	その他	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7

・国産材、外材製材品及びその他の入荷は3ヵ月連続して減少。

・国産材、外材製材品の販売は2月の減少が、3月、4月は総じてやや増加傾向。その他は2月、3月の減少が、4月は横ばい。

・国産材、外材製材品及びその他の在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		29/2月	3月	4月
スギ	柱角 KD10.5×3	28.6	21.4	7.1
	柱角 KD12×3	14.3	7.1	7.1
	通し柱 12×6	20.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	14.3	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	7.1	△ 7.1	△ 7.1
	加工板	8.3	0.0	0.0
	ヌキ	14.3	0.0	0.0
	平割	7.1	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	14.3	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	14.3	7.1	7.1
	土台角 12×4	7.1	0.0	0.0
	通し柱 12×6	8.3	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	7.1	△ 7.1	△ 7.1	
米マツ割物	25.0	16.7	16.7	
北洋エゾマツタルキ	12.5	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	35.7	21.4	14.3	

・スギ柱角の価格は強含み。通し柱、母屋角、加工板、ヌキ及び平割はやや強保合。桁角及びタルキは3ヵ月連続して横ばい。間柱はやや強保合からやや弱含みに。

・ヒノキは、土台角10.5×4がやや強含みであるが、柱角、土台角12×3及び通し柱12×6はやや強保合、柱角KD12×3は3ヵ月連続して横ばい。

・カラマツ土台角は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ平角はやや強保合からやや弱含みに。米マツ割物は強含み。

・北洋エゾマツタルキはやや強保合、北洋アカマツタルキは強含み。

(荷動き)

- ・国産材、外材の入荷順調。国産材、外材共に2月の売上げが厳しい。在庫は約1ヵ月分(関東)。
- ・2月はスギ、ヒノキ、米マツ、北洋材製材品、全ての入荷が減少した。国内製品の減少は、販売不振と雪のため丸太の出材が減少したことが影響した。外材は現地価格が上昇したことが仕入れを抑えた。販売動向は良くない。3月、4月は春需を期待したい。2月は在庫を減らし、3月以降の春需に向けて在庫を増やす見通し(中部)。
- ・1月の入荷減も翌月には回復見込み。入荷減でも需要は変わらず、しかし単価上昇までは行かず(中部)。
- ・国産材は原木不足で入荷減少。外材(米マツ、アカマツ)の輸入も減少(近畿)。

(価格動向)

- ・売先により単価変動 スギ柱角(KD10.5cm) 58,000円/m³、(KD12.0cm) 60,000円/m³、スギ桁角(東北材) 40,000円/m³、母屋角(東北材)(二等) 30,000円/m³、スギタルキ(東北材) 45,000円/m³、スギ間柱(KD) 60,000円/m³、スギ加工板(東北グリーン材) 束2,800円、(KD) 束4,800円、スギヌキ(東北材) 36,000円/束、秋田材50,000円/束 スギ平割(プレーナー) 45,000円/m³、同(ラフ) 43,000/m³、ヒノキ柱角(KD)・土台角10.5cm、12.0cm 80,000円/m³、米マツ平角 KD 65,000円/m³、米マツ割物AD 65,000円/m³、北洋アカマツタルキ(アSEMBル単価) (S) 72,000円/m³、(P) 60,000円/m³、(バンドル単価) (S) 67,000円/m³、(P) 57,000円/m³ (関東)。
- ・スギは現状維持、リフォーム増で造作材の動きは出てくるかもしれない。ヒノキ構造材の動きは良くない、価格は現状維持だが、今後の動きは不透明。米マツは為替の影響で取扱高自体が縮小。為替の安定を望む。アカマツタルキは価格上昇、3月も価格は高止まり(中部)。
- ・産地事情でスギ仕入れは上昇。ヒノキは10.5cm角のみ入荷減で品薄感ある。若干値上げも、それ以上は難しい(中部)。
- ・ヒノキ土台、大引は原木不足。米マツ、北洋アカマツタルキは為替の影響で一部の材が値上げ(近畿)。